

「日本語DP」の開発・導入について（平成26年度予算額：72百万円）

国際バカロレア（IB）について

- 国際バカロレア機構が実施する国際的な教育プログラム
- このうち、高校相当のディプロマプログラム（DP）では、国際的に通用する大学入試資格が取得可能。そのスコアは、世界の主要大学の入学者選抜で広く活用。
- 我が国では、国内の認定校等を、2018年度までに200校（平成26年4月現在：19校）に大幅に増加させる目標を掲げている。（平成25年6月閣議決定「日本再興戦略-JAPAN is BACK-」）

日本語DPの開発・導入

○これまでDPでは、母国語（グループ1：言語と文化）を除く科目を、原則として全て英語で実施する必要があった。



○このため、文部科学省は、国際バカロレア機構との協力の下、IBの普及拡大に向けて、平成25年度より、**DPの科目を英語とともに日本語でも実施可能とするプログラム（「日本語DP」）の開発・導入**に着手。

【これまで日本語DPの対象とされていた科目】

経済、歴史、生物、化学、課題論文、知識の理論、CAS（創造性・活動・奉仕）

【今回新たに日本語DPの対象とされた科目】

数学（SH／HL）、物理

※なお、今回の科目追加を含め「日本語DP」の導入後も、選択6科目中2科目は英語で実施する必要。

日本語DPによるIB校の認定等に関するスケジュール（最短ケース）

平成25年10月	IBに対し、最初の日本語DPによる候補校申請
平成27年 2月頃	IBから、最初の日本語DPによるIB校認定（同年4月に1年生入学）
平成28年 4月	最初の認定校で、2年生より日本語DP課程開始
平成29年11月	同校で、3年生が国際バカロレア試験を受験（平成30年3月卒業）

※ 認定校により、必要に応じ、平成27年4月に日本語DP課程を開始し、平成28年11月に国際バカロレア試験を実施することもあり得る。

DPのカリキュラム

- ① 各グループから1科目ずつ選択し、計6科目を2年間で履修(ただし、グループ6は他のグループからの科目に代えることも可能)。6科目のうち、3～4科目を上級レベル科目(HL・各240時間)として、2～3科目を標準レベル(SL・各150時間)として履修。

グループ名	科目例
1 言語と文学 (母国語)	言語A : 文学、言語A : 言語と文学、文学と演劇
2 言語習得 (外国語)	言語B、初級語学
3 個人と社会	ビジネス、 経済 、地理、 歴史 、情報テクノロジーとグローバル社会、哲学、心理学等
4 実験科学	生物 、 化学 、デザインテクノロジー、 物理 、環境システム
5 数学とコンピューター科学	数学スタディーズ、 数学SL 、 数学HL 、コンピューター科学
6 芸術	音楽、美術、ダンス、フィルム、演劇

- ② さらに、下記3要件を満たす必要。

- 1 **Extended Essay (課題論文)**・・・学習している科目に関連した研究課題を設定して自ら調査・研究を行い、論文とまとめる(日本語を選択した場合は8,000字)。
- 2 **Theory of Knowledge(知識の理論)**・・・学際的な観点から個々の学問分野の知識体系を吟味し、理性的な考え方と客観的精神を養う。さらに、言語・文化・伝統の多様性を認識し国際理解を深めて偏見や偏狭な考え方を正し、論理的思考力を育成する。最低100時間の学習。
- 3 **Creativity/Action/Service (CAS: 創造性・活動・奉仕)**・・・教室外の広い社会で経験を積み、様々な人と共同作業することにより、協調性、思いやり、実践の大切さを学ぶ。最低150時間の学習。

- ③ 国際バカロレア資格(IBディプロマ)の取得には、上記課程を全て修了し、最終の筆記試験等において、45点満点中24点以上を取得する必要。配点は、グループ1～6の科目で各7点(計42点)、3要件で計3点。

【「日本語DP」について】

授業及び試験は、原則として、英語、フランス語、スペイン語で行う必要があるが、その一部科目を、日本語でも実施が可能とするプログラム。

青は、これまでの日本語DP対象科目、**赤**は今回新たに追加となった科目(平成26年5月)。

※日本語DP導入後も、6科目中2科目(通常、グループ2(外国語) 加え、更に1科目)は、英語等で履修する必要。